

でんでんくん



あぶみ先生



でんでんくん



きぬたくん



つちこちゃん

発行：きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）

小・中学校（通常学級）における支援について①

「きこえとことば支援センター」が関わっている小・中学生の中には、難聴学級ではなく通常学級に在籍して学んでいる児童生徒もいます。今回は大きな集団の中で聴覚障害をもつ子どもたちが安心して学べる環境をつくるための具体的な方法や工夫についてご紹介します。



コミュニケーション

大事な連絡は「文字情報で」が原則ですが、日常的は語りかけの場合、「キーワード」を示すだけでも大きな手掛かりとなります。その場の話題が何についてなのかが分かるだけでも、内容を類推できてスムーズに伝わりやすくなります。

補聴援助システムの活用

補聴器や人工内耳がうまくはたらかない状況（騒音下や話し手と距離があるとき等）では「補聴援助システム」を使うことで周囲の雑音を取り除いて話し手の声をクリアにしたり、離れた場所からでも聞き取りやすくしたりできます。また、CDやテレビ、携帯電話と補聴援助システムを直接つなぐことで、より明瞭に聞き取ることができます。



ケーブルで接続してUDトークなど音声認識アプリの入力用マイクとして使用することも可能です。



英語の学習

きこえ方には個人差があるので、「難聴だから英語ができない」ということはありません。しかし「耳で聞く」活動が多い教科に苦手意識をもつ子どもは少なくありません。ここでは中学生以上の指導例をご紹介します。

(1) 単語の覚え方 シラブル

単語のスペルを「syllable（音節）数」に分け「発音記号」「ストレス（強勢）」に気をつけて発音する。日本語の意味と合わせてノートに書いて覚える。

Syllable の数	発音記号	カタカナの発音
Re-al-ly 3	[ri:əli]	[リイアリイ]
日本語の意味	「本当に、まったく」	

(2) 英文の覚え方

- ①指導者に続いて読む。最初はゆっくり単語を syllable（音節）単位で指さして読む。
- ②指導者の範読を聞きながら文字を指で確認しながら聴く。
- ③指ではなく目で追いながら聴く。
- ④文字を見るのをやめ、範読を読話しながら聴く。
- ⑤ダイアログの中から2～3文を選び、読みを聴いて書き取る。

【参考文献】「難聴児・生徒理解ハンドブック～通常の学級で教える先生へ～」学苑社

聴覚支援学校で体験研修をしてみませんか（対象：小・中・高等学校の教員・臨時講師）

聴覚支援学校の授業参加及び授業づくり等の体験的な研修を通して、指導計画に基づく授業づくりや指導・支援方法について学ぶことができます。日時の設定など、ニーズに応じて柔軟に対応いたします。どうぞお気軽にお問い合わせください。

難聴児童交流会



7月6日(土)に本校で行われた交流会には、県内の小学校に通う児童及び本校の小学部児童合計15名とその保護者、担任の先生が集いました。

児童の交流では、自己紹介の後、グループ対抗で4つのゲームを行いました。お題に沿って整列する「せいれつゲーム」、ペアになってボールをスティックで運ぶ「スティックリレー」、息を合わせて場所を移動する「しゅんかんいどう」、恒例となったロールペーパーを積み上げる「ぐらぐらロールタワー」など、どれも協力したり声を掛け合ったりしながら、楽しく交流を深めることができました。

また今回は、本校高等部専攻科2年生の生徒2名が参加し、写真撮影やゲームの審判などを務めたり記念品のプレゼントをしてくれたりして、先輩としての立場で会を盛り上げてくれました。さらに、交流会の終わりには、今年度で参加が最後となる6年生の児童が「学校生活を楽しむためのコツ」について、これまで学んだことを、参加児童たちに向けてプレゼンで紹介してくれました。短い時間でしたが、とても楽しく充実したひとときを過ごすことができました。

保護者情報交換会

地元の小・中学校の難聴学級を経て、本校高等部に入学し、修了を控えている先輩保護者による講話をいただきました。きょうだいへの接し方、登校時に温かく送り出すことの大切さ、分からない時は聞き返すことを幼少期から伝えてきたこと等、これまでの子育てを振り返り多岐にわたる内容でした。参加者からも、質問や感想が沢山出されました。



《話題に挙がったこと・参加者の感想の例》

- ・上の子どもと比べてしまうが、そうではないことをこの会で確認できた。
- ・「やばい」等の言葉は、家庭でも使わない。別の言葉に置き換えて話すことが大切。
- ・耳からの情報が入りにくい子どもたちにとって、家庭での言葉掛けや、読書の習慣は語彙を増やすことにもつながる。
- ・自分だけが補聴器という環境下、親としての向き合い方が参考になった。
- ・このようにいろいろな経験談を聞く機会を大事にしたい。

お知らせ①

〈一側性難聴の集いについて〉令和6年8月17日(土) 9:30~12:00

一側性難聴児童生徒とご家族、担当者を対象に、一側性難聴の方の経験談を聞いてきこえの状態や必要な支援を学んだり、情報交換したりします。参加者全員で楽しく交流し、毎年「参加してよかった」という感想を多数いただいております。対象のご家庭や学校宛にご案内しておりますが(参加対象は小学生以上で、幼児の場合は保護者のみの参加とさせていただきます)、関心のある方はお問い合わせください。

お知らせ②(担当者限定)

〈聴覚障害教育担当者研修会〉令和6年8月6日(火) 9:30~11:30

東北福祉大学の茂木成友先生をお迎えして「聴覚障害児における漢字の読み書き習得の発達一日記による指導からー」というテーマで講演いただきます。各校宛にご案内をお送りしておりますので、詳細をご確認の上、お申し込みください。

〈手話学習会②〉令和6年8月22日(木) 9:00~9:40

習熟度に応じて3グループに分かれて実施します。お気軽にご参加ください。

参加申し込みは、8月16日(金)まで「きこえとことば支援センター」小松までお願いします。

きこえとことば支援センター(秋田県立聴覚支援学校内)【直通携帯電話】090-8784-6302
〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号
【聴覚支援学校】TEL:018-889-8572 FAX:018-889-8575
E-mail: chokaku-s_shien@akita-pref.ed.jp